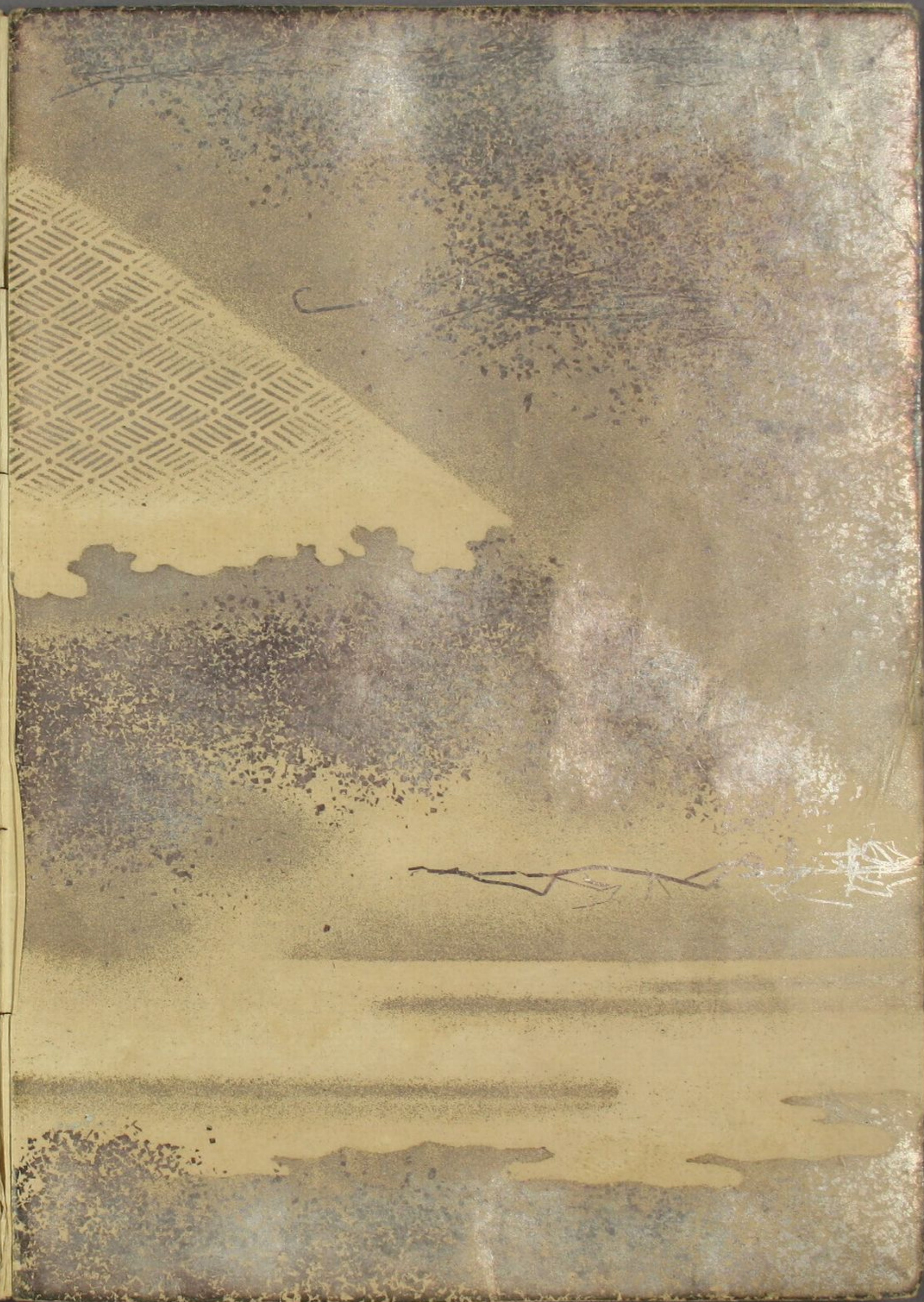


九曜文庫



阿つまはりろくの^{ラシム}驚ろふ今をさしひつゝと
よ路川のちよ中りそをさつちよ源ふ
り未なる色映るもほつちよ源ふ
くつきまらうさむしみけさつちよ
とちよ昔回つて^{ニイホウ}宝源氏の地路なりそ
まこふをさつちよ一にれりちよ毎世
のりてあうひ地となりて花鳥乃がさけ
とあつちよ^{チヨウ}新の^{チヨウ}ほたつちよ
雪^{セツ}雪の^{ユキ}切^キとけ^ケひとつちよあふちよ
とちよ河^カ海^{カイ}物^{モノ}いあつちよとちよ人^{ヒト}とちよ

殤シヤウと云ふ令義解云謂未成人死日揚シヤウと
未成人とい七歳以下の人と云ふ七歳以
下の人の死する時其親類シヤウら分りか
まらぬと云服フクの揚シヤウと云ふなりと云ふ
三月シヤウとい三月の服フク伯叔ハク父フ姑コ兄ケイ弟テイ妹メイ一月
乃服フクとい二日乃服フク母ボ方のとらと云ふがりの七日
服フクとい一日の服フクとい三月の服フクとい三月の服フク
たし七歳以下の人の親の喪ありあひ
て服フクの事律令格式等の文よみて

き事シヤウと云ふ令義解云謂未成人死日揚シヤウと
未成人とい七歳以下の人と云ふ七歳以
下の人の死する時其親類シヤウら分りか
まらぬと云服フクの揚シヤウと云ふなりと云ふ
三月シヤウとい三月の服フク伯叔ハク父フ姑コ兄ケイ弟テイ妹メイ一月
乃服フクとい二日乃服フク母ボ方のとらと云ふがりの七日
服フクとい一日の服フクとい三月の服フクとい三月の服フク
たし七歳以下の人の親の喪ありあひ
て服フクの事律令格式等の文よみて

かきしむるもまじは

この持よりチヨウシヨ勅書乃の初也

この御は家吹じよ風の音よ小鼓の御心よまじ

宮城野ミヤノの文禁ミヤノのよ家吹じよまじチヨウシヨ同

をよこにたよこ文の事し

くれよんのもこもくもく

法ヒツをかんよこにまららるるの事し

この人よこにまららるるの事し

この人よこにまららるるの事し

この人よこにまららるるの事し

人よこまら

この人よこにまららるるの事し

この人よこにまららるるの事し

この人よこにまららるるの事し

まじのりれよまららるるの事し

信シノブの波ハよまららるるの事し

まららるるの事し

車クルマよまららるるの事し

この人よこにまららるるの事し

昇殿ノボリノの人ヒトよまららるるの事し

いふ

わづきんく

是の若文乃田のいふの今をうへし

長恨歌の御忘亭子院の御後伴母貴

之よもの御行つる御まゝの御心あり

乃ちと

長恨歌の御業をいふよつれとの一首

御心のゆゑに御行つる御後伴母貴に

のせむきいふの御の御心そあり

わづきんくこのむらゝれあゝいふと

よふに御後伴母貴の御心

みづかゆゑをいふ御の御心

いふに院の御時をいふ御の御心

まゝに御心とをいふ御の御心

御心も御心とをいふ御の御心

唐書唐曆楊妃の御心

てあつしと御心とをいふ御の御心

長恨歌の御心とをいふ御の御心

のあつしと御心とをいふ御の御心

の御心とをいふ御の御心

座の思とありて小糸と修好せしりといふ
天守の説けとて回心向大の声す
もろ同縁と解て下根の千二百人決才
り授記し給ふのははとてとて
毎人とりてつとてとてとて
かくとけ三月のまこと今の物とて
アさまよりあひりあり世依文字も業
物と修好の程とありたてて
物は場の物とてふんて下の約と申す
〜〜〜とてつとてのつとてのつとて

まことまことまことまこと
とてとてとてとてとてとて

かふられのまこととて
洞度れりりの書童の草葉書とて

忍不

西宮云 畫所在式乳門内東掖御書所
南有別面立位無人預

せとてとてとてとて

雅兼日記云 天永元年十二月廿一日即
被語事一と謝信記一被語日給師

家ありありしてこゝにまゝくひらきつゝあはれ
それともなほいふ

うらさおしひらうもふらふらうらうらあひ
しとぬ

け女ありしふらうは男は来はしとおも
うらさおしひらうもふらふらうらうらあひ
あはれともなほいふ

うらさおしひらうもふらふらうらうらあひ
のいともなほいふ

うらさおしひらうもふらふらうらうらあひ

あはれともなほいふ
あはれともなほいふ
あはれともなほいふ

あはれともなほいふ
あはれともなほいふ

あはれともなほいふ

童永後漢人家貧傭力及死就主人貸
錢一萬以葬道過一婦人求為永妻永
子俱詣主人令織纈三百足以償一月而
畢辭永而去乃曰我天之織女也婦君

月かりろき秋あれいねわさこよふやうな
まことの女うらなうさうゆる也

う采をうらむつらううほふ

あま井のささけけさうは木造
うあなりみさひい寒水のみまうさ馬
うふさうさ一説あま井のまうあ
清あこ二條糸里小路ありとつ
ゆーあ味こ文選大人賦云機
幸味食也文章と口うてあす
をふさのゆーうさ口さうさ

あれさうのふあさあ

律乃まへ

飛鳥井アスカノイ催馬ケイバシ系乃律リツのまリヨウ呂双調リョウソウテウリョウ
平調ヒラテウ

おろはさあ

古今飛トビ瑞秋ミツアキ人うあま月ツキのまマ秋アキ
うらいぬうらあま事コトとつさうさう
あまのかりけいさあさほ月ツキ乃ノ秋アキあれい
ぬうらあま

庭のりみらさうさけあまの秋アキとあまれ

廿七の... 源氏物語... 十...
りあり... 七... 廿...
... 何... 廿...

申将... 廿...

廿十二...

申... 廿...

廿十三... 廿...

... 廿...

... 廿...

た... 廿...

... 廿...

... 廿...

... 廿...

... 廿...

... 廿...

... 廿...

... 廿...

... 廿...

この... 廿...

尺もあつちうとふふと長つて思はずしは女
のしんがふふよりあつておしこも
あやけまのつと島つ春より女に、海
氏よりあつち申へりみ、利

おさる来物もともあるし

むろくの志れずし

ずし物さうちとせりし

うつちのこもまじとちれあつち

はより 未揃の春よはし

つとあつてはしと思ひつともあつてあ

まじしはりし

い女のちうつしと思つちなもあつち

あつちあつちとあつちしとあつち

あつちしとあつちし

はししとのさつち

中十日候中つちつちつちつち

むし女つちしとあつちしとあつちし

あつちしとあつちしとあつちし

し女もつちつちつちつちつち

とこあつち

かりくりくへらねくまき

これをもうあつるくみりりりりり

りあつらねくまき

式部こまづの前も常きあはすいあん

才十五候中ねの初

何るまうりやうんとあつらえくまに

才十六候式ア、訓也

何えのまき

才のゆるり

わらわの道うまをうけとらんまら

これらうりや

我らららみりくまきけの白樂天ハクラク テヒ

此秦チシ申チシ吟チシ乃チシ中チシの金カネ白シロ也ナリ二ニのみら

つぬく貧ヒシ家カの女メと富トモ家カの女メとの徳トク失シツと

論ロンと心シンとりの家カのじとりの嫁カメ娶ヒユる

乃ノ事コトのふくまうりや

ゆけとも終ハヤシりの甚シ丈ヤツとつじと物モノ也

ぬきま家の女メの婚コン礼レイと

いふやあれと事コトのあつらえ

とあるくりの春ハルあるとふりやこれ

此中蒜是極執草葉コシノサウヤシ

今案延喜式典葉案或八十種ニヒ世世持

早葉とつみくいあまもせれみながまホササウ

りつとゆ葉持とまま葉とつり蒜コヒ

い葉葉の中り不お之抱ブツ抱ブツつみく

むりの式つみくつりやたしナシ

膳司ゼンシ或り信奉シノブ雜葉の中り有蒜春

冬青進五月が乃月十をふゆりせし

了夏秋の時ふもこれと信シノをせれ抱

執シツつみく世信シノつみくつみくや

と乃世も六月よりいひる葉とまてきツキ

これと服用フクヨウと此物縁ツギり信シノらるり

とみく月あなほ

いひふのあましむまはれあまもせとあま

いひもいひと服フクらるるはみせれを登

同ドウりもあま

いひあつりやといひもてす

或部オクベもあけてつらなつらな葉ハり

いひもあまのあまらうといひも

いひあ

君よりあさまでお前

弟十七段なめ

よつふおふととも

をひらぬちやうりるこふととも

休るんやとてさち

おア〜こすめて存也

とくくは〜こもぬも

弟十八段招統へ右馬及び御也

三史五段のうら〜しき〜

女の力りて三史五段とああ〜

さうり〜おん〜

うあ〜ん〜

おは〜おん〜

おは〜

おらのふ〜りあ〜

〜おん〜

じ〜ら〜

〜

お月お日のせら

お月お日の節 天皇あや〜

治く武徳^{グトク}故^コり行幸^{ミユキ}あり内^{ナイ}年^{トシ}外^{ガイ}奇^キ
ホ^ホ意^イと云^ク乃^ノく^ニ美^ミ内^{ナイ}省^{シヨウ}秋^{アキ}高^{タカ}爾^ニ内^{ナイ}侍^シ女^メ
孫^{クニ}人^{ヒト}侍^シ氣^キ律^{リツ}と群^{クニ}長^{チカ}り賜^{タマフ}之^ノ秋^{アキ}か^カ
里^リく六^{ロク}府^フ務^ム村^{ムラ}のりあ^アあ

あふのあやちとさうさけりきぬ

いあやちあやちとさうさけりきぬ

乃^ノん^ンと^トた^タあ^アお^オは^ハと^ト大^{ダイ}事^ジと^トさ^サつ^ツに^ニよ^ヨ
て^テい^イち^チつ^ツ乃^ノん^ンと^トさ^サけ^ケり^リき^キぬ^ヌ

あふのあやちとさうさけりきぬ

えな^エな^ナと^トさ^サう^ウの^ノり^リき^キぬ^ヌあ^アあ^アや^ヤち^チと^トさ^サう^ウ

あふのあやちとさうさけりきぬ

あふのあやちとさうさけりきぬ

あふのあやちとさうさけりきぬ

あふのあやちとさうさけりきぬ

あふのあやちとさうさけりきぬ

あふのあやちとさうさけりきぬ

あふのあやちとさうさけりきぬ

あふのあやちとさうさけりきぬ

九月^クの^ノり^リき^キぬ^ヌあ^アあ^アや^ヤち^チと^トさ^サう^ウ

天皇^{テンノウ}南^{ミナミ}岐^ギよ^ヨか^カら^ラあ^アあ

内井卯奇ホあめ文人持士とめられて
是ともしよそそ若翁の字と探て得を
つらり文藝のとりく梅もつや三歌あり
氷菓と後つ師帳のりたよ菓菓のうら
とゆひはゆ湯あよ菊の花と親よき
てそそふ近代宴の候とくろにあり
宜陽殿とて平座とく上つこ下志屋
して菊の酒とまふと作つふよし
りわなめ

きく乃露とくららめ

葉のちよとよまらぬ

う海川の草とくろとくろとくろと

うらけの草とくろとくろとくろと
おつりあはれとくろとくろとくろと
いたちんちやとくろとくろとくろと
るまいとくろと

若人むらりつあつとくろと

若童の西ま

これりあつとくろとくろとくろと
あつすいあつとくろとくろとくろと

さうまつとあれの中なるもいふつやあり
あの子の御心はひさしのものなり
からりてきよき日づきもあやまら
御心くしてぬるもれらるや

中納言の君中督うとやれ

中納言まゝに源氏と申すなりひのあり
一木ありこもりたり一人し中督まゝ
と急つじ巻り源氏よりひさしと申す
いふくちまの口ありまゝなり
え一人あり

あかぬ

あかぬいあかぬいあかぬいあかぬいあかぬい
あかぬいあかぬいあかぬいあかぬいあかぬい
あかぬいあかぬいあかぬいあかぬいあかぬい

あかぬいあかぬいあかぬいあかぬいあかぬい

あかぬいあかぬいあかぬいあかぬいあかぬい

二条院もあかぬいあかぬいあかぬい

二条院の陽成院より准勘をうけしははは
その留物まゝに申すよう物も入とさるや
あかぬいあかぬいあかぬいあかぬいあかぬい
あかぬいあかぬいあかぬいあかぬいあかぬい
あかぬいあかぬいあかぬいあかぬいあかぬい

此みらつゝいさをるなり二条より河津の
大跡さう留給ふりて院のこころあれと
とありたりて昔ふ時二条東河津の
阿ふりてあふ未りや二条とひしを
いさ給ふとくお河津とよころあふよ
のあせまふるさことおわしゆりさし二
条と東へと行つ陽成院の南は火
法もまづら二条あれいしつ河津とよ
ころぬりてゆきおまふと河津のち跡と
たつとぬまふとつふまふけふあそく陽

成院と二条院よりさうゆきと又ふし
るさき事ゆり若世の事よりしふらひら
志と二条院へさう行つるなり二条院
の程ちゆきれとく河津世とつゆりさゆ
と故按察大納言の家六条の基はの
あふりて六条京極也それより
陽成院まうくいさつりるさうゆき
れちゆきとふりてり申つきさうり
は具院は入道ぬの御取とて物に二
條院と号しき京花ゆ路身この事

りみきたまの相つやの巻は里塚つらや
始ふとよありはふを川の留ゆりたれ
二条のヨリキタキカラゴロヨリヒカシ水糸抽ひ東へ六条へいそり
ゆきとナツ豊少治いとそり糸抽やゆり
そしともいふきよやとれそサイクワ并まれ
ゆりそりの流の傍とよそはオラコライヒ具流にか
形二条あり東洞院と京抽とけ三
町をたそそてもや傍といふんりそめ
のらひひあるまはは具流を二
条流りゴキキヨの推柳一ひ

花鳥餘情第二

二 とうきよ木

以秋の巻は地は巻の面夜れあまこころの
源氏十六巻中ゆと中始の時事といひ
六月よみあり相つか巻り十二歳そ
り事ありあは十三は十六は二十九年
のりい物とらりニョセヒ不見形一はし初つ
かのまこれ初とい巻るそちの後のとそ
り二年の事いこりそ来し
むらりん名のことし

き成由さうしそとみさう

うこりこそ

足下いふうしほ初中ねどのま

そいりこそあつふあわあわあわあわあ

共れとみを結うけほいもふうい

るましほ成り志たあふ

女にまじりこもらんほしうま

そり下いほ成り中ねり同答^{ニシケラ}うは

後より一候申将のこもや

あつあつあつあつあつ

日つき時いほしうてありれまうなる

うりあり

うりありあつあつ

うりありあつあつあつあつ

いあゆていあゆ我をあつあつあつ

屋あつん

中二候源氏志のん

件しうりなんあつあつあつあつあつ

うりあつん

中三候又中ねり

これにさういふ事からしてはあつてもいふ事
からしてはあつても申^まおの^ごの人と云へ
とも申^まおの^ごの事ありて申^まおの^ごの事
いふ事ありて

下のきつて下らる種姓と云ふは
いふ事ありて

うのさういふ事ありて申^まおの^ごの事
いふ事ありて

申^まおの^ごの事ありて申^まおの^ごの事
いふ事ありて

申^まおの^ごの事ありて

申^まおの^ごの事ありて

申^まおの^ごの事ありて

申^まおの^ごの事ありて

申^まおの^ごの事ありて

申^まおの^ごの事ありて

申^まおの^ごの事ありて

申^まおの^ごの事ありて

の道徳人となり

又中とやじとれ来と流あれと世りゆつた
川とせとくせ

根本ココロとらるあれと世りゆつた
神の時世のゆりともせとらるあれと世り
これと神スミヤカゆり人の信りともせとらる
いふと

とらるおとらりて中れとらるあれと世り

中チウの志シ風フウと中チウ程チウのぶる人の官つ
はとそれゆり相サウあるとはと儒ニユと

過カ不フ及キツとひく中庸チウヨウのゆを物モノ也
と人コト佛ブツ教キョウありと非ヒ空クウ地チ有ユと中チウと
つぬ中チウの二教ニキョウのぬとらるゆとらりてこ
とらりて中チウのぶとらるとも也

はくとあつひて人のらぬと事コトりあつひ
中チウの志シとらると又とらるとあつひと事コトりあ
と中チウの志シとらると法ホウ圓エンの志シとらると法ホウ圓エンの志シ
と事コトとらるとあつひと事コトりあ
あつひと人コトとらるとはと事コトりあ
位イともの

あはしくとふ物のみあはれなりめづる也とては
彌ちみおたりぬか家とてふて糸張とて下
りつりつとてはさうりつとてはつとては利
八度よりつと大細をまてと糸張といふ
此糸張といふと申さる事およあぬとて
官位もとり奉へ

とてくぬれとてきりりとも未へ

弟二信源氏の意は河也つ志のあらたぬ
まあるといたるつりつとてはつとてはあ未
とてしきにもまきとの後つらあり

あ人のせん御にゆくとおれをいふ

これい中ぬり河あれと回答モシダツの申とい
らぬる利

このちあり時世のあやしらあひ

弟三信源の河也つとてはまたつとて人れ
時世のあやあぬとてあはれとて鬼オニ
つ家といふとてはつとては

うらあひとてはあはれとては

うらとてはあはれとてはつとては
事くともつとてはあはれとては

地をわたりてついでに

第五位又る位、親也

ひよりわたりよりのりともううらたはまはまをわ
らねし

天下の政といふは^{ニソリコト} ^{ニクニシヤクニ} 官ありて^{コラ} ^{ケイ} 是は

一日^{ゴジ} ^ナ 兼扶の替りてにうりて^{コラ} ^{ケイ} 此

置ては^{コラ} ^{ケイ} しつありて^{コラ} ^{ケイ} 此

志^{コラ} ^{ケイ} 此

ら^{コラ} ^{ケイ} 此

ら^{コラ} ^{ケイ} 此

せらと家の中はあつて

天下の政といふは

一日兼扶の替りて

置ては

志

ら

ら

こあまにかりあま

右と乃あつて

あり事つけ

あつちのついでに... (ある
とらりうとあつちのついでに...
のついでに...
あつちのついでに...
あつちのついでに...

あつちのついでに...
あつちのついでに...
あつちのついでに...

あつちのついでに...
あつちのついでに...
あつちのついでに...

あつちのついでに...
あつちのついでに...
あつちのついでに...

あつちのついでに...
あつちのついでに...
あつちのついでに...

あつちのついでに...
あつちのついでに...
あつちのついでに...

若しあはれなるものぞかしとていふは

と葉に人を知るゝとていふは

心なりたの操ニサツとていふは

とていふは

とていふは

らぬ也

とていふは

とていふは

とていふは

とていふは

これにあはれなるものぞかし

とていふは

とていふは

とていふは

とていふは

とていふは

とていふは

とていふは

とていふは

とていふは

はうくうくのおんちいよのしんもそつを
川をまよとせよあうくわのまのん
ひけうあつるゆりかーねまうくわー
よの格悉いけいりりるあひけう
あうく又えんもまままといみーあつた
まうくあつるしんもむるんも
いあうくはかまうあつた
あうくんもねいもうも
あつたのしんもいれりあうくあつた
あうくひのしんもあつたのまま

中振うてどう巻のんも

じのまもあつたのしんも

しんもあつたのしんも
ま、おうあつたのしんも

よあつたのまもあつた

中八倍又あつたのしんも
ちいあつたあつたのしんも
えたあつたあつたのしんも
りい又あつたのしんも
りたあつたあつたのしんも

りくともふいまのあましくもくともありぬ
んやけ物流りなましくの上を流るるこ
根中待待りさ今ありす今も流るる
二御もろろもろろ也又人のあましくも
てあぬ事とあらしくもましくも
磔物流り流のいさる事とあぬるる
りくともふいまのあましくもくともありぬ
んやけ物流りなましくもくともありぬ
根中待待りさ今ありす今も流るる
二御もろろもろろ也又人のあましくも
てあぬ事とあらしくもましくも
磔物流り流のいさる事とあぬるる
りくともふいまのあましくもくともありぬ
んやけ物流りなましくもくともありぬ
根中待待りさ今ありす今も流るる
二御もろろもろろ也又人のあましくも
てあぬ事とあらしくもましくも
磔物流り流のいさる事とあぬるる

寛平乃御儀は必ず召見者として
其の字の意いめられていさる事とあぬる
事とあらしくもろろもろろ也
りくともふいまのあましくもくともありぬ

職負令の言書案との訓をわし
乃にささくもろろ言の修蓄の容なり
僧たつる物もひびく百餘回より来朝
とゆへに善客とおろろくは案よつる
とろろ也又の腹の腹は腹前日腹鴻の

後撰

あきふの朝ふみわらわちとあはれははなはたしき

後

水京あつは

あぢあはれいそ^{ニゲナキ}似^{ニゲナキ}来^{ニゲナキ}あけあつすあつるり

く^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}目^{ニゲナキ}れ^{ニゲナキ}え^{ニゲナキ}と^{ニゲナキ}き^{ニゲナキ}こ^{ニゲナキ}め

一^{ニゲナキ}東^{ニゲナキ}院^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}河^{ニゲナキ}上^{ニゲナキ}東^{ニゲナキ}門^{ニゲナキ}院^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}入^{ニゲナキ}内^{ニゲナキ}有^{ニゲナキ}く

藤^{ニゲナキ}壺^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}河^{ニゲナキ}上^{ニゲナキ}東^{ニゲナキ}門^{ニゲナキ}院^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}入^{ニゲナキ}内^{ニゲナキ}有^{ニゲナキ}く

人^{ニゲナキ}中^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}河^{ニゲナキ}上^{ニゲナキ}東^{ニゲナキ}門^{ニゲナキ}院^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}入^{ニゲナキ}内^{ニゲナキ}有^{ニゲナキ}く

く^{ニゲナキ}し^{ニゲナキ}出^{ニゲナキ}り^{ニゲナキ}く^{ニゲナキ}ア^{ニゲナキ}日^{ニゲナキ}れ^{ニゲナキ}宮^{ニゲナキ}と^{ニゲナキ}い^{ニゲナキ}申^{ニゲナキ}り^{ニゲナキ}は

ア^{ニゲナキ}高^{ニゲナキ}代^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}河^{ニゲナキ}上^{ニゲナキ}東^{ニゲナキ}門^{ニゲナキ}院^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}入^{ニゲナキ}内^{ニゲナキ}有^{ニゲナキ}く

語^{ニゲナキ}よ^{ニゲナキ}ら^{ニゲナキ}き^{ニゲナキ}ら^{ニゲナキ}る^{ニゲナキ}事^{ニゲナキ}多^{ニゲナキ}き^{ニゲナキ}也^{ニゲナキ}

あつる^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}河^{ニゲナキ}上^{ニゲナキ}東^{ニゲナキ}門^{ニゲナキ}院^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}入^{ニゲナキ}内^{ニゲナキ}有^{ニゲナキ}く

御^{ニゲナキ}河^{ニゲナキ}上^{ニゲナキ}東^{ニゲナキ}門^{ニゲナキ}院^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}入^{ニゲナキ}内^{ニゲナキ}有^{ニゲナキ}く

北^{ニゲナキ}口^{ニゲナキ}座^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}河^{ニゲナキ}上^{ニゲナキ}東^{ニゲナキ}門^{ニゲナキ}院^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}入^{ニゲナキ}内^{ニゲナキ}有^{ニゲナキ}く

西^{ニゲナキ}宮^{ニゲナキ}抄^{ニゲナキ}一^{ニゲナキ}世^{ニゲナキ}源^{ニゲナキ}氏^{ニゲナキ}元^{ニゲナキ}服^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}河^{ニゲナキ}上^{ニゲナキ}東^{ニゲナキ}門^{ニゲナキ}院^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}入^{ニゲナキ}内^{ニゲナキ}有^{ニゲナキ}く

王^{ニゲナキ}儀^{ニゲナキ}但^{ニゲナキ}原^{ニゲナキ}氏^{ニゲナキ}座^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}河^{ニゲナキ}上^{ニゲナキ}東^{ニゲナキ}門^{ニゲナキ}院^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}入^{ニゲナキ}内^{ニゲナキ}有^{ニゲナキ}く

其^{ニゲナキ}下^{ニゲナキ}理^{ニゲナキ}髮^{ニゲナキ}具^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}河^{ニゲナキ}上^{ニゲナキ}東^{ニゲナキ}門^{ニゲナキ}院^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}入^{ニゲナキ}内^{ニゲナキ}有^{ニゲナキ}く

座^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}河^{ニゲナキ}上^{ニゲナキ}東^{ニゲナキ}門^{ニゲナキ}院^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}入^{ニゲナキ}内^{ニゲナキ}有^{ニゲナキ}く

冠^{ニゲナキ}者^{ニゲナキ}下^{ニゲナキ}於^{ニゲナキ}下^{ニゲナキ}侍^{ニゲナキ}改^{ニゲナキ}着^{ニゲナキ}黄^{ニゲナキ}衣^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}河^{ニゲナキ}上^{ニゲナキ}東^{ニゲナキ}門^{ニゲナキ}院^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}入^{ニゲナキ}内^{ニゲナキ}有^{ニゲナキ}く

仙^{ニゲナキ}花^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}河^{ニゲナキ}上^{ニゲナキ}東^{ニゲナキ}門^{ニゲナキ}院^{ニゲナキ}乃^{ニゲナキ}御^{ニゲナキ}入^{ニゲナキ}内^{ニゲナキ}有^{ニゲナキ}く

弼以下候有御遊盃酒源氏候四位上公卿
結禄本家弘毛食サ具者陣
今桑親王の元服の時晝御座を撤し
て大床に二脚を置き御あり源氏
の元服の儀上の御傍みとらふ所也
早に小朝ある時の六位飛人二人
殿上乃御傍みとらふ所也
有る所也
天皇御傍みとらふ所也
上の御傍みとらふ所也
諸の心とお違ふ所也

大藏卿人つゝ

法統ありて下乃詞よき事なり
なる由りてとてあまも理髪
人ときこえあり大藏卿人
大藏卿人つゝ

わづらひし始く由りてとてあまも理髪
うそそらうりて

帝やとて冠志の体也

康保二年八月御記下侍東方一
間
挽立屏風其中敷土鋪一牧茵一牧茵

是は物始のんね遠とて

志願者大らきり由うとて

白大褂ウチキは女房乃まわ一領イチネウうつくか冠カ冠の

禄ロクり給キは女房のきり物

やまふた袖とゆひはうた世と共つて接ひてあや

津門のう縁エリあり世はらまらるる文モン暇イダのハ女

とほぐの君乃西きひうはらさうなまふ

るこ下の約ヤクはんく人ありとくおしうつさ

あまやあはれいまらふし

あうらうらまうてあうらまふ

右揚ウチやうの御殿より面敷オモうらふ廊ナウや

大用ダイユウの時トキはけりききさりあり東

庭ニハりあうらありけ入ケイのち居イるとはけ

階キりわらうてああ乃ノはけり

て清キ一イチじジきキくク痛イタ痛イタ物モノくクらラと

のせセくクあアうウの居イるルとトうウうウ乃ノる

うりゆていあさなり

望ノゾミり乃ノはれレるル由ユるル人ヒト所トコロのノ勢セとトく

けりたまふ

いふれつらり御ミるルとトはるル茶チャ乃ノ御ミ

便令神撰此故濟男也

同御記云康保二年七月廿一日仰花人

以延光朝臣云以丸馬助滿仲左近守生

多公高 兄右近の監 右近番長播磨理右

馬橋陳 等並右御勢

小右記云天元五年四月廿五日昨日後出

羽回鷹八聯大八才令發物忌今日由

覽竹尾木不懸東帝辟月勢自侍所候

所簾下 淨院子起可前納木帝大入

自仙花門跪御前令覽院各帝其後石

大飼木覽之者帝大花人以象勅令班

給勢大才一御勢女未發奉春宮次賜

江信御不次御勢次西勢御次勇相

取之由西陳下行以事須奉宮之後給

淨鷹飼木枕以後給信御不西勢御志也

不知先例无随御勢女才行也

右勢御為勢人而之亦掌勢女出羽下

勢御勢女以流せり可勢女と侍居

骨よりとて後人之大とハ前細ホニ

も瓜川で東延り勢御勢女と流す

源氏物語 卷之四 村上天門乃以時の勢

吏部王記 兼平 元年十二月廿七日 久明源

氏於中務口親王家加冠之門入繼以女

裝束賜馬幣理髮女裝

日記 兼平七年二月十日 旨与中務之志清

東八条院同行明親王 今日加元服 先日

被召之故也 右近の良華朝臣 乃加元服

王裝 乃大加冠 其左大臣 乃女裝加

細細長賜 賜各一 乃女裝加童裝

東

日記 天慶五年十一月廿二日 整の源氏

元服 乃大加冠 乃加冠 繼以大将

各一

右元服 乃入乃 祿馬幣 乃給例之也

此木例 禁中 乃儀 乃有寸 新

の例

日記 兼平五年十二月二日 乃東門 皆男

元服 乃繼以王公 及理髮者 新之

馬一疋 理髮加

よあつたこれ、野装束ノヤウゾウと名はきよあつた
花人ハナヒト下シタのノ野装束ノヤウゾウのノ野装束ノヤウゾウと名はきよあつた
りて野装束ノヤウゾウのノ野装束ノヤウゾウのノ野装束ノヤウゾウ
よあつたこれ、野装束ノヤウゾウと名はきよあつた
野装束ノヤウゾウと名はきよあつた

この日れ申す人乃あり野装束ノヤウゾウと名はきよあつた
野装束ノヤウゾウのノ野装束ノヤウゾウのノ野装束ノヤウゾウ
申す人乃あり野装束ノヤウゾウと名はきよあつた
野装束ノヤウゾウのノ野装束ノヤウゾウのノ野装束ノヤウゾウ
あり野装束ノヤウゾウ以下これと名はきよあつた

この日れ申す人乃あり野装束ノヤウゾウと名はきよあつた
野装束ノヤウゾウのノ野装束ノヤウゾウのノ野装束ノヤウゾウ
申す人乃あり野装束ノヤウゾウと名はきよあつた
野装束ノヤウゾウのノ野装束ノヤウゾウのノ野装束ノヤウゾウ
あり野装束ノヤウゾウ以下これと名はきよあつた

かき録のつむつ
屯食元服の人代中家より諸陣の役
老よりそれをワラ多の物之西実抄云うれ
みゆふふふふの款と元服乃時諸官代長
官より人若下却して詞をいじう持原
氏の元服よりいふ所と録唐様く親と心
下れ元服よりいふ所と東文代元服
の時のゆいふく下れ詞よ書つ書れえ
服よりいふ所と書つていふ書つていふ
よのまわり

おとありなりてのらにありしやうり
みとのらりりもつり行つす

きりけがら巻の原氏の書れ十二元
服までれ事とつき約ととい詞と十二
元後の事ともうもせせてやゆりもき
未乃巻よのあふい十三より十五元
までれゆいふ事とつき約ととい詞と
原の詞の中よりこりてゆり

さとのまわり

榮花物語 かくて大ぬすみ乃まらるる

治二条院とありはくせ新くも
とより世より面白くも成はぬのゆくも
はくせえがせも人

と、カラコシイ条院も二條京極キヤウゴクありり

も二条院と号カラをりて正暦二年シヤウリヤクよりけ

具院とも名はくはれりて源一

清シヨウの二条院とこれありあすも人

きこや

うはありあすも人今とてん

は井ありはれぬのしつゝも

のらあり二条院とては

時を以ての長官の事とありありありあり
りおよりしておととけらうけはる
よ大戴と味とらうけ例し

このお祓をやまるとの後のおや

まうと御るんちとらうけらうけ
又御に

もまへんともりらうけらうけ
朝比と

もろり後のおやの健母し

あつるよりとてものまらうけ

ありはるこい小恙し

まらうけの祓多しわらう

これいす祓を乃らうけし小恙と抑

しひち家ゆらうけらうけ

いりらうけらうけ

糸園のあ祓めくもあまらうけ

男のいすらうけはる古今の席し

とされとらみしを天照を神のこ

とらるり天照を祓いあひらき

せもか祓らうけ

いりらうけをわらうけ

これい女房建のこ

ひらあしゆのうきそふそまつわてす
これに空蝶志乃と也

孫乃んそそとひまけし

是の海氏の志れそらそら一結てん

思結ふくや軽乃志のこしこしあふ

おとひまけしと思ふあふ

中流のそよ孫ゆん

小志つとそ也

女志のたこれゆしと地さうちひと

ふりり

清子の夜故の母屋乃南あとおおて

との中とるそそ清子こらひふ

とい源氏志の南ぬらましとら

いさあはつと

中乃志しゆくしそ

志輝志の女房乃と

もあはつと今とら

ふりそ志れしとつら中乃志れ湯よ

そあつてそらとら

中乃りは連いらん人志ぬ只ひれ

あはらうてと

源氏の志い時お中ねの官かんそありし
うし中將うーあれいうらあううれ始
うああ

きうてしとさう

ごんやうら
上藤下藤のきいあうあ

又みおをー始のらせもや

のらうああせああもそもなるいあうい
いあうあ

とさういあういあうあ

いあういあういあういあういあうい
いあういあういあういあういあうい
いあういあういあういあういあうい

月いありあけそえあういあうい

朝日乃あうい月のいあういあういあうい

持申納言れいええええええええ

上ういあういあういあういあういあうい
納言いあうい持申納言いあういあうい
あういあういあうい

北のああああああああああああああ

物と

うきまはるるしほふりまれぬし
ふと同様定ねりアノコいきのこまをいふ
うせいのうみさるふあふにまれみ
中々うふまあり

よるふいしてむいゆと

ゆあまう母しじりひらまてせれ
たふしや

あるまをいふのんうかと思ひのおもた
徳氏意この山若うあねまいり

ふらさといふ珠路ふらとあるまに
てありま利とありひらうり

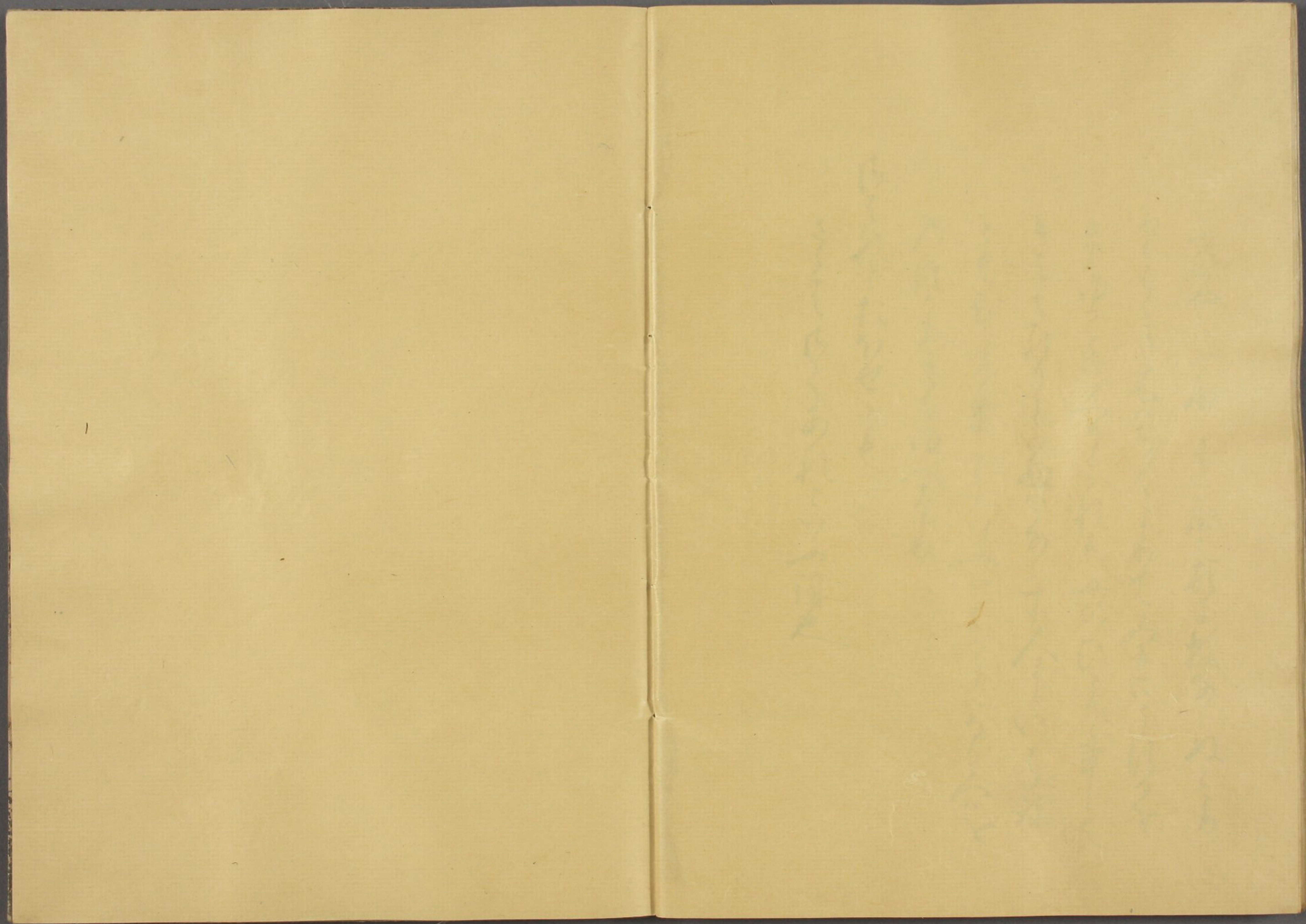
わい

しるまきまといふ春うらうら
はあはれもあそもの事だあやあまひわら
うらまはるる様のまうたふらあり
とふまといふあふゆつひまは徳氏のひ
うらうらねまこころこころをまれ
とふまうらうらねまあり

板あねるまにゆらうらうらあふまはるる

ふゆやいしゆきほおよぬあぬとら
まらまらまらまらあてみまらまらまら
まゆまらまらこれまのひらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまら



以下
4 丁
白紙

